

九鬼嘉隆

九鬼嘉隆（1542-1600）は、大規模な軍事的・社会的な激動があった戦国時代（1467-1600）時代に水軍の将として台頭しました。九鬼はもともと海賊の頭でしたが、1570 年頃、当時天下の支配を争っていた武将たちの中で最も強力だった織田信長（1534-1582）に配下の艦隊の忠誠を誓いました。有名な戦いにおいて、九鬼は鉄板で武装した巨大な水上要塞を建造し、敵の艦隊を封じて近距離から撃沈しました。

織田の暗殺の後、九鬼は台頭しつつあった天下人、豊臣秀吉(1536?-1598)に仕え、豊臣の水軍の頭領に任命されました。豊臣の後ろ盾の下、九鬼は 1594 年に完成した鳥羽城を築城しました。現在、かつて鳥羽城があった場所は城山公園になっています。ここを訪れる人は、城の基礎部分の名残を見ることができ、また、九鬼が鳥羽城から眺めた鳥羽湾を一望する景色を楽しむことができます。

1600 年の関ヶ原の戦いで、九鬼は自分の息子が敵の徳川に忠誠を誓っても、豊臣側のために戦い続けました。徳川の決定的な勝利の後、彼の息子は彼の父のために恩赦を得ましたが、九鬼は知らせが届く頃には切腹を遂げていました。彼の遺体は答志島に埋葬されています。